

スポーツクラブがデザインした「癒しの時間」

清原 泰治

(高知女子大学文化学部教授)

初めて構想を説明したときのやりとりが、昨日のここのように思い出される。

「何で茶摘みをしてもらって、お金をもらうことができるんですか。逆でしょう？手伝ってもらったらこちらがお金を払うべきでしょう？」

「農作業の手伝いならば賃金をもらうことになるけれど、これは茶摘みをして遊ばせてもらうのだから参加料を払います。」

「…？…」

あれから2年が過ぎた。清流クラブ池川が、「お茶摘み体験」事業を6月24日(日)に、仁淀川町池川地区の黒川利雄さん所有の茶畑で実施した。



(小雨の降る中ではあったが、楽しい茶摘みの時間が過ぎていく)

既に、本HP上の「[山里の小さな総合型地域スポーツクラブの大きな夢](#)」で紹介したが、私が担当する高知女子大学文化学部地域文化論演習(以下、ゼミとする)が提案した山村体験事業を、清流クラブ池川がモニターツアーという形で実現してくれたのである。今回は、ゼミの学生7名が参加し、小雨の降り続く中、茶摘みと交流の一日を満喫した。当日の行動は以下のとおりである。

午前9時に池川総合支所前に集合し、茶畑に車で移動。茶畑に着くと、既に清流クラブ池川のみなさんが雨の中、茶摘みを始めていた。摘み方を習った学生たちが合流し、おしゃべりをしながら手当たり次第に摘み始める。

11時頃に茶摘みを終了し、おやつタイムに。黒川家のおばあちゃんお手製のおはぎとまんじゅう、「うちの庭になっていた」というクラブのメンバー持参の桃を食べた後に、黒川さんの畑に行く。畑には見事なトマトとキュウリがなっており、つるからもいだけばかりの野菜に塩を振って食べる。学生たちが感動の表情を見せた。実にうまい！

昼食は地元のまちづくり集団「遊遊会」手作りの弁当。食材はすべて池川地区でとれたものばかりで、これにも学生たちは感動した。「おなかいっぱいでもう食べられ

ない」と言った学生たちが全員、家まで持ち帰ったほどおいしい弁当だった。



(池川地区で採れた山菜や土佐ジローの卵焼きが入ったお弁当)

学生たちが摘み取った茶葉は、黒川さんの加工場でお茶になった。その加工の作業中、ツボイ地区に出かけてトマトの巨大なハウスを見学。戻って来るとお茶ができており、自分たちが摘んだお茶を飲みながら、手作りのお菓子を味わった。



(お茶の説明をする黒川利雄さん)

午後 4 時、1kg のお茶、袋いっぱいのだまねぎ、昼の弁当の残り、まんじゅうやおはぎ、桃、トマト…など、たくさんの「池川の幸」を手にとり解散。

参加費は昼食代を含めて 3500 円。

以下に、学生たちの感想を紹介しておきたい。

・今日は初めての体験ばかりでした。まず、茶畑を見たのも初めてだったし、茶摘みも、お茶が出来る工程を見た事も、あんなに大きなトマトを見たのも、全てに感動でした。考えてみると、高知に来てこういうふうに地域の人と接するのは、初めてだったかもしれません。地域の人達を見ていると、何だか家族の事を思い出して、実家が恋しくなりました。沢山の人もおもてなしをしていただいて、本当に美味しくいただきました。池川の人々や自然に

触れられて、とても楽しい一日でした。

是非多くの人にもこれを体験して欲しいと思います。今日は、本当にありがとうございました。(2回生)

・今日はあいにくの雨でしたが、逆に深い森の中に広がる霧など自然の神秘さを感じられる景色に目を奪われました。行きの車の中で、お茶の葉の段段畑は数段もあり、初めて見る光景にただただびっくりするばかりでした。

地元の人々の笑顔を見て、心が和んだところでのお茶摘みや食事は、その土地の伝統を感じながら文化に触れられる、とてもよい体験でした。

池川にある「田舎」とは…人・土地・食に触れられる最高の場所でした。(2回生)

・今日は本当に楽しい時間を過ごすことができました。初めて見る茶畑はとても美しかったし、初めて経験する茶摘みも楽しくて、いつの間にか没頭していました。何より、池川地区の人たちがお茶やおはぎをご馳走してくれたり、畑の野菜を食べさせてくれたりととても親切で、人の温かさを感じました。本当に3500円でいいのだろうか心配するほどでした。今日は、自然、食べ物、人に感謝した一日でした。(2回生)

・今日は、非日常の1日でした。山に囲まれ、マイナスイオン全開の土地。そこでの茶摘み体験、お茶の工程見学、手作りお菓子にお弁当、新鮮な野菜、また地域の方のおもてなしは、とても面白く、興味深く、温かいものでした。

初めての池川はいい所でした。地域の人々の、生活の知恵・歴史・繋がりを肌で感じました。(2回生)

・今日は緑に囲まれ、いつもの慌ただしい時間を忘れさせてくれたような気がしました。お茶摘みという貴重な体験を通して池川の方の優しさに触れることができた、そんな一日でした。(2回生)

・今日は参加させていただき、ありがとうございました。自分たちが少しでも関わった企画が、実現したことが本当に嬉しいです。

桃や野菜、トマト、おはぎ、作りたてのお茶…池川のいいところをまた感じることができました。

参加料については、あれだけのお世話をしてもらって、お土産もたくさんいただいて、全く違和感のない値段です。一般向けにまた開催していただけたらなあと思います。なにより、池川のみなさんとお話をたくさんさせていただいたこと、すごく楽しく、嬉しかったです。「また、行きたいなあ。」「友達や家族も連れてきたいなあ。」そう思いました。

去年、私達なりに頑張って作った企画が、モニター企画として実現されたことに、喜びを感じています!!企画を実行してくれた、清流クラブ池川のみなさんに感謝するとともに、「やろうッ!」と思う人たちの力の強さに感動しました。

田舎の巨大な力を、とくと見せ付けられました…。町づくりへの姿勢をもう一度考え直すきっかけになる一日でした。(4回生)

・今日は清流クラブ池川の方々のおかげで本当に充実した、楽しい時間を過ごすことができました。

みんなが身の周りでふだん当たり前と思って過ごしている空間を、観光として十分に活かせるんだと、身をもって今日の体験で感じました。

今日は東の間の「池川住人」になっていたことがすごく心地よく、また新鮮な気分を味

わうことができました。みなさんの、「池川に来てくれてありがとう」という気持ちが温かく伝わってきて嬉しかったです。今後も度々伺いたいと思います。(4回生)



(参加したゼミの学生たち)

学生たちの感想を見るまで、私は体験事業を「遊び」だと思っていた。しかし、よく読むと、学生たちは清流クラブ池川のみなさんの「人の心の温かさ」に感動し、池川地区の魅力を感じていることが分かる。まさに「癒し」である。

体験事業の目的は、「遊び」を通じて池川魅力を都市の人々に体験してもらい、「ふるさと会員」としての賛助会費を獲得するきっかけにすることであった。しかし、それはあまりに小さなとらえ方だということがよく分かった。

参加した学生たちは、池川地区の豊かな自然や人間的・文化的な魅力を発見し、この地域への思いを強くしている。中山間地域での体験事業の意義は、中山間地域の「いま」を理解してもらうことであり、それは社会教育として重要な意味を持つのではないか。中山間地域の理解は、中山間地域を守ろうとする人々の行動につながっていくだろう。地域間格差の問題、限界集落の問題、過疎化・高齢化の問題、林業政策の問題、環境保護の問題…など、日本が抱えているいくつもの課題に身近な問題として向き合わざるを得なくなる。

スポーツクラブは、スポーツ愛好者の集団である。「実験」とは言え、今回のような地域づくり活動はスポーツクラブの守備範囲を超えているのかもしれない。ある意味ではスタッフの「過重負担」になることが危惧される。しかし、こういう事業を実現できる集団が、中山間地域に他にどれほどあるだろうか。地域の内発的発展を担う集団として、総合型地域スポーツクラブに期待したい。

「総合型地域スポーツクラブを語ることは、地域のスポーツの夢を語ることだ」とある卒業生が言った。

今回の体験事業を終えて、「総合型地域スポーツクラブを語ることは、地域の夢を語ることだ」と言い換えたい思いでいる。